

173 号 上海事情・2

豫園

この近辺は、日本の浅草のような観光客も多く喧騒な雰囲気、緑波廊途いわれている、建物は木造で、約 100 年前に建てられ、増築とお神楽を重ねて概ね 4 階 5 階建てで、お城のような雰囲気だ。

朱塗り金ぴかのなんとも素晴らしいものだ。赤を下地にしたキンキラキンの万艦飾で飾り、屋根の、軒は、「剣」か「水牛の角」のようにそりかえし天を突き、美しく力強く伝統的な建築物があたりを睥睨している。

豫園とは、420 年前の 1559 年上海は海辺の小漁村であったころ、当時の有力者潘允端（パンユウンドゥアン）氏の私邸に個人花園として造られたものだ。現在は、上海のなかでも、重要文化財として保存されもっとも中国らしさを残している庭園だ。

木造で一昔前の日本の農家にあるように敷居を高くし、股がなくては入れない方式だ、これは外敵の侵入を防ぐためと説明されたが、私は、水の浸入を防ぐためではないかと質問したが返答なし。このように山や池を巡らした建築物、中国のもっとも中国らしい庭園と言われている。続く



174号 上海事情・3

次はポートンと呼ばれている浦東地区上海の中心地に向かう。豫園からポートンまで黄浦江を渡らなければならない。

橋とトンネルがあるが、トンネルの入り口までは、バスが動かぬほどの大渋滞だ。

特に多いのがタクシーで、クラクションをけたたましく鳴らし、交通ルールなど全く無視して走り回っている。この光景は、昭和30年代、東京の雲助タクシーを思い出した。

ここで一つ問題なのは、海外どこの国へ行っても、日本の小型車が我物顔で走り回っている。ところが、上海での我物顔は、日本の小型車ではなく、ドイツのフォルクスワーゲンだ。

上海万博の為に、上海市がタクシー車両の、入札をおこなったところ、ドイツのワーゲンと競争になりニホンのトヨタが負けである。

日本の小型車が世界を席巻したのは昔の話か、ここでまた、日本の劣勢を見た思いである。ここでの教訓、トヨタも常勝将軍ではない。ことだ。 続く



175号 上海事情-4

浦東地区は、所謂日本で言う川向う、川のこちらは、旧上海のバンドと呼ばれる外灘地区である。昔は、海外列強の大天使公使館が並び、上海租界として治外法権地区であり、もっとも栄えた地域である。

今でも当時の建物がそのまま残っており、観光客が多く繁盛している。川向う浦東地区との格差は、つい数年前まで、西では一部屋の家賃で、東では一軒家が借りられるほどの格差があった。

今一番隆盛を極めている陸家嘴（ルーズアンズイ）と言われ、黄浦江が西から南から東へ大きく進路を変えるところに位置し、鳥の嘴のような地域で陸家嘴（ルーズアンズイ）と名付けられた。

造船所など海運業者など水運に関係する工場が立地し、住民は下層階級が多く居住していた地域、いまは、公園と、上海一の高層建築が立ち並ぶ、金融とビジネスの中心地区だ。

ここには、数回訪れているが、来るたびの変化に驚かされる。今も建設中のビルが到るところの空間を埋め尽くし、空き地は無いとのことだ。中国のバブルはいつまで続くのか？
続く



176号 上海事情-5
上海環球金融中心「森ビル」観察

通称栓抜きビルと言われ、2008年6月1日完工、高さ492メートルは世界最高であったが、現在は中東のドバイに2010年1月5日完工したブルジュドバイ828メートルが世界一である。

このビルの売り物は、何といっても、世界最高のスカイウォークだ。ビルの高さでは負けるが、474メートルの展望台では世界一である。

床と言うか、橋と言おうか、所謂展望橋は、透明の素材が使われ474メートルの地上が見える仕掛けだ。下を見ると思わず足の裏がかゆくなり、身がすくむ思いだ。

展望台には、観光客が殺到し、474メートルの高さに感動し、写真撮影に余念がない、ここにもちやっかり観光写真屋が待ち構えてシャッターを切っている。

展望トイレ世界一があり、話のネタに用を足した。なるほど世界一の高さで用を足すのは気持ちのよいものだ。

展望台の栓抜き部分は、当初計画では丸（○）だったが、「日本の国旗日の丸を想起するのでと」四角に変更した。ここに、反日感情が隠れてはいないか？

続く



176号 上海事情-3

上海環球金融中心「森ビル」視察

通称栓抜きビルと言われ、2008年6月1日完工、高さ492メートルは世界最高であったが、現在は中東のドバイに2010年1月5日完工したブルジュドバイ828メートルが世界一である。このビルの売り物は、何といっても、世界最高のスカイウォークだ。ビルの高さでは負けるが、474メートルの展望台では世界一である。床と言うか、橋と言うか、所謂展望橋は、透明の素材が使われ474メートルの地上が見える仕掛けだ。下を見ると思わず足の裏がかゆくなり、身がすくむ思いだ。展望台には、観光客が殺到し、474メートルの高さに感動し、写真撮影に余念がない、ここにもちやっかり観光写真屋が待ち構えてシャッターを切っている。

展望トイレ世界一があり、話のネタに用を足した。なるほど世界一の高さで用を足すのは気持ちのよいものだ。展望台の栓抜き部分は、当初計画では丸（○）だったが、「日本の国旗日の丸を想起するのでと」四角に変更した。ここに、反日感情が隠れてはいないか？

ビルの概要は、展望台から見える真下がこのビルの基礎の中心である。上海はもともと上流からの泥んこが堆積した土地で、3メートル掘ると水が出るので、建物を建てるには厄介な全く厄介な軟弱地盤だ。

基礎工事は、40～80メートルの摩擦杭を2270本打ち込み生け花の剣山を逆さ使いにしたような基礎を作った。高層のための風対策としては、新らしく開発した揺れ止め装置を使った。（質問したがよくわからない）地震対策としては、90階にも耐震装置を施した。このビルは、敷地面積30,000m²、建築面積14,400m²、建物延べ床面積380,000m²、総工費1250億円だ。床面積は、森ビル六本木ヒルズ、横浜ランドマークタワーとほぼ同じ規模だ。ビル外観は、500メートルの柱から、栓抜き部分を切り取ったイメージで、見る場所によりビルの形が違い昼も美しいが、夜になると、妖しげな雰囲気を醸し出す不思議なビルだ。事業内容は、77階までオフィス 3～5階8階～プレゼンテーションルームや、フォーラム、商業施設、28階プレゼンテーションギャラリーでは、上海市概要の紹介をしている。展望がよくなるのは、94階～100階である。86階は、パンケットエリアである。このビルは、上海市のランドマークタワーとして、上海市民に愛されている。

ビルの最高責任者である上海環球金融中心吉村明郎総經理は、私の旧知の友人である。平成14年11月ビル建設中にも訪問し説明を受けた。このときは、べつに開業中の、センモアタイカ HSBC TOWERをご案内頂いた。

上海は大きく変わり浦東地区が開発され、総面積1.7km² 東京の半分の面積だ。黄浦江400メートルを挟んで橋とトンネルでインフラを整備した。ここ、陸家嘴（リューチャーチェー）は開発の中心部である。

世界中から国際経済金融関係が集結するアジアの中心都市で、活力あふれる街、黄浦江

の展望は、1月のナイトクルーズと、ビル展望台からの西日が沈む景色が最高だ。中国は、なんでも世界一が好き、森ビルに一番を取られるのが、我慢がならないとのことで、早速、森ビルの目のまえに上海資本のビルが建つ。高さ、634メートル、階高100階だ。これで、中国のメンツが保たれることになる。尚ビジネスでは現在のオフィスビルの需要は凄まじく、まだまだ不足している。新しい設備の整ったビルは建設待ちの状況、上海はまだまだ発展する。と結ばれた。バブルでないか？疑問だが？ 続く

177号 上海事情-6

栓抜きビル概要

ビルの概要是、展望台から見える真下がこのビルの基礎の中心である。上海はもともと上流からの泥んこが堆積した土地で、3メートル掘ると水が出るので、建物を建てるには厄介な全く厄介な軟弱地盤だ。

基礎工事は、40～80メートルの摩擦杭を2270本打ち込み生け花の剣山を逆さ使いにしたような基礎を作った。高層のための風対策としては、新らしく開発した揺れ止め装置を使った。（質問したがよくわからない）地震対策としては、90階にも耐震装置を施した。このビルは、敷地面積30,000m²、建築面積14,400m²、建物延べ床面積380,000m²、総工費1250億円だ。床面積は、森ビル六本木ヒルズ、横浜ランドマークタワーとほぼ同じ規模だ。ビル外観は、500メートルの柱から、栓抜き部分を切り取ったイメージで、見る場所によりビルの形が違う昼も美しいが、夜間になると、妖しげな雰囲気を醸し出す不思議なビルだ。事業内容は、77階までオフィス 3～5階8階～プレゼンテーションルームや、フォーラム、商業施設、28階プレゼンテーションギャラリーでは、上海市概要の紹介をしている。展望がよくなるのは、94階～100階である。86階は、バンケットエリアである。このビルは、上海市のランドマークタワーとして、上海市民に愛されている。

続く

177号 上海事情－6

六和塔

杭州市西湖は、上有天国、下有西湖と称され風光明媚なところだ。

そもそも六和とは六方即ち「天、地、東、西、南、北」、全て目出度しとし六方を祝すと言う。更に神の怒りによる「錢塘江の大逆流」を鎮めたと言い伝えられている。この怒りを鎮めるために六和塔を建てたとされている。

六和塔が造られたのは、六和寺の一部として北宋時代 971 年から南宋時代の半ばまで長年の歳月をかけて完成したものだ。レンガと木材を組み合わせその名の通り六角形の構造である。12 階建で 59.89 メートル高さがある。

中国のお寺特有の赤い外壁と規則正しい窓の配置、各階層に屋根瓦と軒先には、天を睨む龍を配したり睥睨している様は一見カラフルのなかにも、威厳がありしかも厳肅な雰囲気だ。最上階にある展望台から西湖を一望にできる

続く



178号 上海事情-7

ビルの最高責任者である上海環球金融中心吉村明郎総經理は、私の旧知の友人である。平成14年11月ビル建設中にも訪問し説明を受けた。このときは、べつに開業中の、セシモアタイカ HSBC TOWOWERをご案内頂いた。

上海は大きく変わり浦東地区が開発され、総面積1.7km² 東京の半分の面積だ。黄浦江400メートルを挟んで橋とトンネルでインフラを整備した。ここ、陸家嘴（リューチャーチェー）は開発の中心部である。

世界中から国際経済金融関係が集結するアジアの中心都市で、活力あふれる街、黄浦江の展望は、1月のナイトクルーズと、ビル展望台からの西日が沈む景色が最高だ。中国は、なんでも世界一が好き、森ビルに一番を取られるのが、我慢がならないとのことで、早速、森ビルの目のまえに上海資本のビルが建つ。高さ、634メートル、階高100階だ。これで、中国のメンツが保たれることになる。尚ビジネスでは現在のオフィスビルの需要は凄まじく、まだまだ不足している。新しい設備の整ったビルは建設待ちの状況、上海はまだまだ発展する。と結ばれた。バブルでないか？疑問だが？ 続く

178号

中国の凄まじい発展

今さら言うまでもないことだが、今や世界の政治と経済は中国に振り回されている。米国との二極化を目指し、世界の牽引者を自負しドルの時代から元の時代と言明し憚らない。外交面では尖閣諸島事件などしたい放題だ。万博会場の規制、割り込みの是認新幹線で他人の席の占拠などマナー悪さ、自分本位の国民性が見え隠れする。

貧富の格差拡大

貧富の格差は拡大の一途だ。上品とは言えない身なりの人が道端に露店を広げている、観光バスの発着所には、貧しい服装の物売りがたむろしている。そして、外国人の目に触れぬよう旧市街の古い建物を目隠してある。裏通りは万艦飾の洗濯物と水たまりの残る路地がちらちら見える。底辺の国民は不満が鬱積している。続く



179号 バブル

上海から杭州までの鉄道沿線に本物の新幹線を建設中、更に併行して高速道路、そして住宅用のビル建設が続く。上海から158kmの杭州まで沿線沿いに切れ目なしに続いている。正に建設バブルだ。こんなことが続くのか？日本人上海商工俱楽部や森ビル関係者に「バブルではないか」と質問を浴びせたが否定された。しかし私はバブルと判断した。いずれははじけるのではないか。結論らしくないことを書きなぐり紙数が尽きました。御参考になったかどうか。中国バブルは、すでにはじけ減速している。終わり

